

講義概要

2017年度



大阪市立大学大学院

法学研究科

法学研究科法学政治学専攻授業科目 科目ナンバーについて

科目ナンバーは、その科目の分野、水準、学年等を示すものです。学習の段階や順序を整理し、教育課程をより体系的に理解するための一つのツールとして、履修科目を選択する際などに利用してください。

※科目ナンバリング コード配分

例	<u>JA</u>	<u>FUN</u>	<u>55</u>	<u>01</u>
	①	②	③	④

① 科目の提供組織(全学共通・学部・学科・副専攻など) (1・2桁目)

法学研究科法学政治学専攻授業科目はすべて「JA」とする。

②科目の分野 (3～5桁目)

分野	3～5桁目
基礎法	FUN
公法	PUB
私法	PRI
社会法	SOC
国際関係法・外国法	INT
政治・行政学	POL
共通(特殊講義)	COM
外書講読	LNG
特別研究	ADV

② 課程(6・7桁目)

課程	6～7桁目
前期博士課程	55
後期博士課程	66

③ 分野ごとの番号(8・9桁目)

2017年度 法学研究科法学政治学専攻開講科目一覽

※担当教員欄が空白の科目は不開講

前期博士課程

	授業科目名	単位	科目ナンバー	担当教員		授業科目名	単位	科目ナンバー	担当教員
《基礎法学》	法哲学	4	JAFUN5501		《国際関係法・外国法》	国際法	4	JAINT5501	
	法社会学	4	JAFUN5502	阿部昌樹		国際組織法	4	JAINT5502	桐山孝信
	日本法制史	4	JAFUN5503	安竹貴彦		国際経済法	2	JAINT5503	平覚
	東洋法制史	4	JAFUN5504			国際私法第1	2	JAINT5504	国友明彦
	西洋法制史	4	JAFUN5505			国際私法第2	2	JAINT5505	国友明彦
	ロ一マ法	4	JAFUN5506			国際民事手続法	2	JAINT5506	
《公法》	憲法第1	4	JAPUB5501	阿部和文	《政治・行政学》	国際取引法	2	JAINT5507	平覚
	憲法第2	4	JAPUB5502			英米法	4	JAINT5508	勝田卓也
	憲法第3	4	JAPUB5503	渡邊賢		ドイツ法	4	JAINT5509	守矢健一
	行政法第1	4	JAPUB5504	重本達哉		フランス法	4	JAINT5510	
	行政法第2	4	JAPUB5505			比較文化論	4	JAINT5511	
	行政法第3	4	JAPUB5506			アジア法第1(中国法)	4	JAINT5512	王晨
	環境法	4	JAPUB5506			アジア法第2	4	JAINT5513	
	刑事法第1	4	JAPUB5507	金澤真理		政治学	2	JAPOL5501	稗田健志
	刑事法第2	4	JAPUB5508	三島聡		政治学史	2	JAPOL5502	宇羽野明子
	刑事法第3	4	JAPUB5509	松倉治代		政治文化論	2	JAPOL5503	宇羽野明子
刑事政策	4	JAPUB5510	恒光徹	日本政治外交史		2	JAPOL5504		
《私法》	民法第1	4	JAPRI5501	森山浩江		欧州政治外交史	2	JAPOL5505	
	民法第2	4	JAPRI5502	高橋眞		国際政治史	2	JAPOL5506	野田昌吾
	民法第3	4	JAPRI5503		行政学	2	JAPOL5507	永井史男	
	民法第4	4	JAPRI5504	杉本好央	公共政策論	2	JAPOL5508	手塚洋輔	
	民法第5	4	JAPRI5505	藤井徳展	都市政治	2	JAPOL5509		
	民法第6	4	JAPRI5506		政治過程論	2	JAPOL5510	野田昌吾	
	商法第1	4	JAPRI5507	小柿徳武	アジア政治	2	JAPOL5511	永井史男	
	商法第2	2	JAPRI5508	吉井敦子	日本外交論	2	JAPOL5512		
	商法第3	4	JAPRI5509	高橋英治	比較政治論	2	JAPOL5513	稗田健志	
	商法第4	4	JAPRI5510		都市政治政策論	2	JAPOL5514		
	商企業法務	2	JAPRI5511	吉井敦子	地方自治論	2	JAPOL5515	手塚洋輔	
	知的所有権法	2	JAPRI5512		《共通》	特殊講義(ドイツ法)	4	JACOM5501	高田篤
	民事訴訟法第1	4	JAPRI5513			特殊講義(倒産法)	2	JACOM5501	田頭章一
	民事訴訟法第2	4	JAPRI5514	鶴田滋	《研究》	特殊講義外書講読	2・4	JACOM5501	
	民事執行・保全法	2	JAPRI5515			特別研究	14	JALNG5501	
	倒産法	4	JAPRI5516	高田賢治					
《社会法》	労働法	4	JASOC5501	根本到					
	社会障法	4	JASOC5502						
	経済法	4	JASOC5503						

後期博士課程

	授業科目名	単位	科目ナンバー	担当教員		授業科目名	単位	科目ナンバー	担当教員	
《基礎法学》	法哲学	4	JAFUN6601		《国際関係法・外国法》	国際法	4	JAINT6601		
	法社会学	4	JAFUN6602	阿部昌樹		国際組織法	4	JAINT6602	桐山孝信	
	日本法制史	4	JAFUN6603	安竹貴彦		国際経済法	2	JAINT6603	平覚	
	東洋法制史	4	JAFUN6604			国際私法第1	2	JAINT6604	国友明彦	
	西洋法制史	4	JAFUN6605			国際私法第2	2	JAINT6605	国友明彦	
	ロ一マ法	4	JAFUN6606			国際民事手続法	2	JAINT6606		
《公法》	憲法第1	4	JAPUB6601	阿部和文	《政治・行政学》	国際取引法	2	JAINT6607	平覚	
	憲法第2	4	JAPUB6602			英米法	4	JAINT6608	勝田卓也	
	憲法第3	4	JAPUB6603	渡邊賢		ドイツ法	4	JAINT6609	守矢健一	
	行政法第1	4	JAPUB6604	重本達哉		アジア法第1(中国法)	4	JAINT6610	王晨	
	行政法第2	4	JAPUB6605			政治学	2	JAPOL6601	稗田健志	
	行政法第3	4	JAPUB6606			政治学史	2	JAPOL6602	宇羽野明子	
	環境法	4	JAPUB6606			政治文化論	2	JAPOL6603	宇羽野明子	
	刑事法第1	4	JAPUB6607	金澤真理		日本政治外交史	2	JAPOL6604		
	刑事法第2	4	JAPUB6608	三島聡		欧州政治外交史	2	JAPOL6605	野田昌吾	
	刑事法第3	4	JAPUB6609	松倉治代		国際政治史	2	JAPOL6606	永井史男	
刑事政策	4	JAPUB6610	恒光徹	行政学		2	JAPOL6607	手塚洋輔		
《私法》	民法第1	4	JAPRI6601	森山浩江		公共政策論	2	JAPOL6608		
	民法第2	4	JAPRI6602	高橋眞		都市政治	2	JAPOL6609		
	民法第3	4	JAPRI6603		政治過程論	2	JAPOL6610	野田昌吾		
	民法第4	4	JAPRI6604	杉本好央	アジア政治	2	JAPOL6611	永井史男		
	民法第5	4	JAPRI6605	藤井徳展	日本外交論	2	JAPOL6612			
	民法第6	4	JAPRI6606		比較政治論	2	JAPOL6613	稗田健志		
	商法第1	4	JAPRI6607	小柿徳武	地方自治論	2	JAPOL6614	手塚洋輔		
	商法第2	4	JAPRI6608	吉井敦子	《共通》	特殊講義(ドイツ法)	4	JACOM6601	高田篤	
	商法第3	4	JAPRI6609	高橋英治		特殊講義(倒産法)	2	JACOM6601	田頭章一	
	商法第4	4	JAPRI6610		特殊講義外書講読	2・4	JACOM6601			
	民事訴訟法第1	4	JAPRI6611		《研究》	特別研究	12	JAADV6601		
	民事訴訟法第2	4	JAPRI6612	鶴田滋						
	民事執行・保全法	2	JAPRI6613							
	倒産法	4	JAPRI6614	高田賢治						
	《社会法》	労働法	4	JASOC6601	根本到					
		社会障法	4	JASOC6602						
経済法		4	JASOC6603							

開講年度・学期	2017年度・通年	授業形態	演習	単位数	4単位
科目名	法社会学	科目ナンバー	JAFUN5502 JAFUN6602		
英語表記	Sociology of Law	担当教員	阿部昌樹		
開講時限	毎週金曜2限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
法社会学の最新文献を読む					
授業の到達目標					
本演習は、Law & Society Review、Law & Policy、Law & Social Inquiry 等の法社会学の専門誌に比較的近年に掲載された学術論文のうち主要なものを順次講読し、法社会学の最新の研究動向を把握するとともに、その背後にある研究の蓄積についての理解を深めることを目的とする。					
授業内容・授業計画					
第1回：ガイダンス					
第2回～第29回：文献講読					
・各回に1本のペースで、法社会学の分野における最近の主要文献を講読する。各回に講読する文献は、第1回の授業の際に指示する。					
第30回：授業のまとめ					
【外国語】英語（外国語の文献講読を主内容とする授業科目）					
事前・事後学習の内容					
事前学習としては、各回の授業で講読する文献を精読し、その内容を可能な限り把握するとともに、疑問点を整理しておくことを求める。事後学習としては、各回の授業の内容を踏まえ、その回の授業で講読した文献についての理解を、確かなものとしておくことを求める。					
評価方法					
授業への貢献度と講読文献の理解度を総合的に評価する。					
受講生へのコメント					
講読を予定している文献の多くが、重回帰分析や因子分析等の統計的手法を用いたものである。あらかじめ統計学を学習しておく必要はないが、少なくとも、授業への参加を通して、法現象を統計的手法を用いて研究するということがどのようなことなのかについての理解を深めたいという意欲は、授業に参加するうえで不可欠である。					
教材					
Law & Society Review、Law & Policy、Law & Social Inquiry 等に掲載された学術論文を教材として用いる。講読する文献のリストは第1回の授業の際に配付する。各論文の掲載誌はいずれもEジャーナル化しているため、教材はすべて、PDFファイル化されたものを、学術情報総合センターのサイトをとおしてダウンロードすることが可能である。					
その他					

開講年度・学期	2017 年度・通年	授業形態	演習	単位数	4 単位
科目名	日本法制史	科目ナンバー	JAFUN5503 JAFUN6603		
英語表記	Japanese Legal History	担当教員	安竹貴彦		
開講時限	毎週水曜 5 限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
明治初年大阪府の刑事判決録を読み解く					
授業の到達目標					
上記史料の読解を通じ、刑事法・裁判制度の「近世と近代との過渡期」を分析するとともに、当時の世相などもうかがう。					
授業内容・授業計画					
<p>明治初年の大阪府で作成された刑事事件の判決集を主たる素材に、これらを一件ずつ丹念に読解することを通じ、この時期の刑事法や刑事訴訟の特徴や変遷を析出するとともに、江戸時代や現代との差異・類似点についても考えます。史料の性質上、幕末～明治初年の大阪およびその周辺地域の経済・社会状況や世相を窺うことにもなるでしょう。今年度は、2004 年度から解説をはじめ、全 24 冊中あと 1 冊に迫った明治 2 年「諸吟味書」(大阪府限りで判決可能であった判例集)の読了を目指し、引き続き明治 3 年「諸吟味書」(全 22 冊、1 冊欠本)へと移っていきたいと思います。</p> <p>これまでの成果は、現在、「法学雑誌」への資料紹介という形で公にしていますので、受講を考慮されている方は御参照ください。受講生が演習のなかで関心を持ったテーマについては、短い「解説」という形で「法学雑誌」への掲載も可能です。</p> <p>単に「読む」だけではなく、上記のような目的意識を共有しながらの翻刻作業ですので、受講者あるいは担当教員からの疑問や話題の提供を受け、それをできるだけ解決しながら進めていきます。明治 2 年「諸吟味書」全 24 冊に収録された判決数は、およそ 650 ほどですが、12 年もかけていまだ完結しないのは、こうした「読み方」にその原因があると御理解ください。</p>					
事前・事後学習の内容					
<p>数年前から受講者にも史料の分担箇所を指定して解説してもらう形を採用しており、2016 年度も同様の形式で実施する予定です。意欲さえあれば、初心者でも数ヶ月で近世文書は一通り解説できるようになります。事前にこの翻刻文を作成する、あるいは他の受講生が作成した翻刻文をチェックすることが予習となります。翻刻文を基に疑問点や提供すべき話題も考えておいてください。</p> <p>演習時間に皆で読解し、一応の確定をみた翻刻文も再度見なおし、読めなかった文字、新たな解釈あるいは疑問などを、次回演習時に積極的に提示してください。</p> <p>また、解説作業は強制するものではなく、翻刻文に目を通してコメントをするという参加形態も可能です。新規受講者ももちろん歓迎いたします。</p>					
評価方法					
演習参加にあたっての翻刻作業、演習時の議論への参加状況などから総合的に判断します。					

受講生へのコメント

これまでの演習にも、しばしば実定法専攻の院生が参加してきました。上記のように「古文書解読能力を身につける」ことが主目的の演習ではありませんので、積極的に受講を検討してみてください。

教材

テキストは特に指定しません。教材となる史料は画像形式あるいは紙媒体で教員が事前配布し、それらと分担箇所担当者が事前配布する翻刻文を見ながら進行します。なお、詳細については初回に改めて説明します。

その他

開講年度・学期	2017 年度・通年	授業形態	演習	単位数	4 単位
科目名	憲法第 1	科目ナンバー	JAPUB5501 JAPUB6601		
英語表記	Constitutional Law 1	担当教員	阿部和文		
開講時限	毎週木曜 1 限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
憲法学の基礎理論 (カール・シュミット『憲法論』講読)					
授業の到達目標					
ドイツ公法学の基本文献の読解を通して、憲法学の基本的な概念を理解し、それによって日本国憲法をめぐる解釈論に適切な距離をもって向き合う前提を身につける。					
授業内容・授業計画					
<p>Carl Schmitt, Verfassungslehre, 1928, Duncker&Humbrot の講読を行う。</p> <p>同書はヴァイマル共和国期ドイツで出版された憲法論の体系書である。本書を含め、シュミットの言動をめぐっては現在でも賛否が分かれている。しかし、法治国や基本権の概念をはじめとして、現在のドイツや日本の公法学には依然として彼の概念や枠組を引き継いでいる面があり、これを克服しようとする場合であっても、まずは彼が何を論じていたのかを適切に理解することが必要である。</p> <p>本演習は以上の関心の下で、上記文献を参加者全員で輪読していく。具体的にどの箇所を講読するかは、初回に、参加者と相談の上で決定する。また、本書には翻訳が複数存在するが、既存の翻訳にとらわれずに講読を進めたい。</p> <p>【外国語】 ドイツ語 (外国語の文献講読を主内容とする授業科目)</p>					
事前・事後学習の内容					
事前学習としては、配布する原文を丹念に読むことが求められる。ただ、具体的にどの程度の分量を読むことが必要となるかは、参加者の能力等による。					
評価方法 演習への出席と参加態度による。					
受講生へのコメント					
本演習は多読ではなく精読を目標としている。著者の言行や政治的な立場、あるいは現在の状況や通念に基づいて裁断するのではなく、まずは書かれた言葉に丁寧に向き合うことが重要である。時代も法状況も異なるために、理解に苦しむ場合もあると思われるが、焦らずに取り組んで欲しい。					
教材					
Carl Schmitt, Verfassungslehre, 1928, Duncker&Humbrot を用いる。本書は何度か同社より再版されており、現在のところ 2010 年に刊行されたものが最新と見られる。ただ、原書の複写はこちらで用意するので、参加者が原書を購入する必要はない。					
その他					

開講年度・学期	2017年度・通年	授業形態	演習	単位数	4単位
科目名	憲法第3	科目ナンバー	J APUB5503	J APUB6603	
英語表記	Constitutional Law 3	担当教員	渡邊賢		
開講時限	毎週金曜5限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
アメリカ合衆国行政法					
授業の到達目標					
アメリカ合衆国の行政法の概略を理解する。					
授業内容・授業計画					
Fox, Understanding Administrative Law (6 th ed.)を用いて、アメリカ合衆国の行政法の理論の概略を学ぶ。					
この著書は全部で15章から構成されているので、2回の講義で1章読むことを目標として、各回の講義を進めていく。					
事前・事後学習の内容					
事前に各章を翻訳し、授業に臨むこと。授業後は、各回で取り上げた合衆国の行政法に関する理論の特徴をまとめておくこと。					
評価方法					
十分に予習を行って授業に臨んでいるか、十分に内容を理解しているか等を総合的に判断して評価する。					
受講生へのコメント					
教材					
Fox, Understanding Administrative Law (6 th ed.)					
その他					

開講年度・学期	2017 年度・通年	授業形態	演習	単位数	4 単位
科目名	行政法第 1	科目ナンバー	JAPUB5504 JAPUB6604		
英語表記	Administrative Law 1	担当教員	重本達哉		
開講時限	毎週木曜 2 限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
現代ドイツ行政法研究——日本行政法との比較を通じて——					
授業の到達目標					
わが国の行政法との比較を通じて、ドイツ行政法の基礎概念について修得すること。その知見を踏まえて、ドイツ行政法の専門文献を渉猟するための基礎的能力を身に着けること。					
授業内容・授業計画					
ドイツ行政法に関する最新の著名な教科書の 1 つである、下記教材（2017 年 3 月下旬刊行予定）を購入し、塩野宏『行政法 I [第六版]』などと比較しながら、日本の行政法との違いなどについて議論する。基本的に、ドイツ法の演習回と日本法の演習回の往復を予定している。					
【外国語】ドイツ語（外国語の文献講読を主内容とする授業科目）					
事前・事後学習の内容					
毎回、上記諸文献の該当箇所を精読して、演習時の議論に堪えられる程度の予習をしてもらうことが求められる。特に、資料の提出を予め指示された者は、ドイツ法の演習回に際しては該当箇所の逐語訳を、日本法の演習回に際しては該当箇所の日独における異同と所見を記したレジュメを、少なくとも事前に準備しなければならない。					
評価方法					
演習時における質疑応答又は議論への参加状況 100%（上記資料の提出の有無及び当該資料の内容については、上記「議論への参加状況」の一環として評価する。）					
受講生へのコメント					
受講を希望する者は、下記教材を予め購入した上で演習に臨むことが望ましい。また、上記の予習に期待されるレベルはそれなりに高度であることを覚悟した上で、演習に臨んで欲しい。					
教材					
<ul style="list-style-type: none"> ・ Steffen Detterbeck, Allgemeines Verwaltungsrecht: mit Verwaltungsprozessrecht, 15. Aufl. (ただし、2017 年 3 月 30 日時点で未刊行の場合には、同書 14 版 [2016 年 3 月刊行] を用いる。) ・ 塩野宏『行政法 I [第六版]』(ただし、一部の論点については他の文献の参照を指示することもある。) 					
その他					

開講年度・学期	2017 年度・通年	授業形態	演習	単位数	4 単位
科目名	刑事法第 1	科目ナンバー	JAPUB5507 JAPUB6607		
英語表記	Criminal Justice 1	担当教員	金澤真理		
開講時限	毎週月曜 1 限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
犯罪論の諸問題					
授業の到達目標					
犯罪論の諸問題につき考究する力を養う。					
授業内容・授業計画					
理論的解明が必要な犯罪論の諸問題を取りあげ、判例や学説を素材として考究する。前期は、最近の議論動向をフォローするために、論文の輪読、判例の検討を行う。演習参加者は、受講にあたり、十分に予習をしておくことが必須である。後期は、日本の議論に少なからぬ影響を与えた諸外国の議論を取りあげ、日本法との比較を行う予定である。					
事前・事後学習の内容					
初回に説明する。					
評価方法					
演習中に指示する。					
受講生へのコメント					
教材					
演習中に指示する。					
その他					

開講年度・学期	2017年度・通年	授業形態	演習	単位数	4単位
科目名	刑事法第2	科目ナンバー	JAPUB5508 JAPUB6608		
英語表記	Criminal Justice 2	担当教員	三島聡		
開講時限	隔週水曜 9:50~13:00※	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題 英米と日本の刑事法の比較研究					
授業の到達目標 英米の制度やその運用を学ぶことを通じて、日本の制度・運用を相対化し広い視野から刑事法を研究できる力を養う。					
授業内容・授業計画 英米の著書・論文をもとに、英米の刑事法と日本の刑事法の比較検討をおこなう。報告担当者が、英米の文献の要約と対応する日本の制度との比較に関するレジュメを作成し、それをもとに授業を進める。英文の逐語訳はおこなわず、内容面の検討に時間を割く。文献としては Michael Cavadino, et al., The Penal System. 5th ed. Sage, 2013. Anthea Hucklesby & Azrini Wahidin ed., Criminal Justice. 2nd ed. Oxford UP, 2013. Andrew Sanders, et al., Criminal Justice. 4th ed. Oxford UP, 2010. Russell L. Christopher ed., Fletcher's Essays on Criminal Law. Oxford UP, 2013. のいずれかを使用する予定。 【外国語】英語（外国語の文献講読を主内容とする授業科目）					
事前・事後学習の内容 事前学習としては、教材となる著書・論文をよく読み内容をつかむことと、それに対応する日本の法制度についてよく学んでおくこと。事後の学習としては、授業で扱った内容をよく整理しておくこと。					
評価方法 授業での報告の内容、発言の頻度・内容にもとづき評価する。					
受講生へのコメント 受講希望者は事前に三島まで連絡すること。授業の曜日・時間帯は、受講希望者の都合を考慮して柔軟に対応する。 教材となる英語の文献の趣旨を正確につかむこととともに、関連する日本の制度についてもよく理解していることが求められる。しっかり予習したうえで授業に臨むこと。					
教材 上記「授業内容・授業計画」欄記載のとおり。					
その他 ※後期は学部の授業との関係で、別の曜日・時間に変更する予定。受講者と相談のうえで決定する					

開講年度・学期	2017年度・前期	授業形態	演習	単位数	4単位
科目名	刑事法第3	科目ナンバー	JAPUB5509 JAPUB6609		
英語表記	Criminal Justice 3	担当教員	松倉治代		
開講時限	毎週月曜1限・2限※	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
刑事手続における基本原則の比較検討					
授業の到達目標					
ドイツの刑事訴訟法に関する基本的文献の購読を通じて、参加者の研究の基盤となる知識を修得し、これを手がかりに、日本の刑事訴訟法分野における学説及び判例を検討できることを目標とします。					
授業内容・授業計画					
本授業では、近代刑事手続の基本原則について、ドイツの刑事訴訟法に関する基本書を購読します。これを手がかりとして、日本法を検討する予定です。					
準備の都合上、参加(希望)者は、必ず事前(2017年4月5日(水)まで)に、①氏名、②連絡用メールアドレス、③研究テーマ、④購読希望文献(あれば)、⑤その他疑問点や質問等を、松倉宛メールで送信してください。					
日程は、演習参加者と相談の上、変更する場合があります。					
事前・事後学習の内容					
対象文献を精読し、訳文を作ってください。購読対象文献はドイツ語ですので、必要に応じて、ドイツ語文法に関する知識等を学習する必要があるでしょう。そのため、各授業の前後に、3-5時間程度の学習を行うことが期待されます。					
評価方法					
各回に提出していただく訳文及び授業への参加状況等を総合的に評価します。					
受講生へのコメント					
大学院の授業ですので、学部・刑事訴訟法の講義を履修し、日本の刑事訴訟法に関する基本的な知識を修得していることを前提として進めます。					
教材					
Claus Roxin, Strafverfahrensrecht; Werner Beulke, Strafprozessrecht; Roxin, Arzt, Tiedemann, Einführung in das Strafrecht und Strafprozessrecht 等の講読を検討していますが、参加者の希望や関心を伺ったうえで、参加者の研究の基盤となりうるものを選択したいと考えています。					
その他					
※開講時限は受講者と相談のうえ、変更する可能性もあります					

開講年度・学期	2017 年度・通年	授業形態	演習	単位数	4 単位
科目名	刑事政策	科目ナンバー	JAPUB5510 JAPUB6610		
英語表記	Criminology	担当教員	恒光徹		
開講時限	毎週木曜 4 限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
現代刑事政策をめぐる諸問題					
授業の到達目標					
アメリカの刑事政策の現状の大枠を理解する。					
授業内容・授業計画					
Siegel, Wesh and Senna, Juvenile Delinquency, 12 th. ed. (2014) と、矯正・保護に関するフランス語文献の両方を読む。					
前者は、現代のアメリカ刑事政策の最も標準的な大学教科書である。					
フランス語が読めない人は、英語文献のみ参加も可能（この場合、第 2 外国語を履修したとはみなさない）。					
【外国語】 フランス語（外国語の文献講読を主内容とする授業科目）					
事前・事後学習の内容					
テキストを事前に読み、疑問点などをまとめておく。					
事後、関連する参考文献を読む					
評価方法					
予習をきちんとしているか、議論に参加できているか、で評価する。					
受講生へのコメント					
アメリカとの比較刑事政策の学習は楽しいです。					
教材					
上記教材をこちらで用意する。					
その他					

開講年度・学期	2017年度・通年	授業形態	演習	単位数	4単位
科目名	民法第1	科目ナンバー	JAPRI5501 JAPRI6601		
英語表記	Civil Law 1	担当教員	森山浩江		
開講時限	受講生と相談のうえ決定する。	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
フランス民法に関する文献の講読					
授業の到達目標					
フランス民法に関する理解を深めるとともに、当該領域のフランス語文献を読解する力をつける					
授業内容・授業計画					
フランス民法に関するフランス語文献を講読する。具体的にどの文献を取り上げるかは、開講時に受講生と相談する。					
【外国語】 フランス語 (外国語の文献講読を主内容とする授業科目)					
事前・事後学習の内容					
とりあげる文献によるが、毎回、一定の範囲について事前に翻訳(逐語訳)を作成してくることにする。					
評価方法					
平常点で評価する。毎回の翻訳等の報告のレベルおよび授業への参加状況により評価する。					
受講生へのコメント					
フランス語読解の基礎的な力があることを前提とします。					
教材					
受講生と相談のうえ指定する。					
その他					

開講年度・学期	2017年度・通年	授業形態	演習	単位数	4単位
科目名	民法第2	科目ナンバー	JAPRI5502 JAPRI6602		
英語表記	Civil Law 2	担当教員	高橋眞		
開講時限	毎週火曜2限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
日本民法の古典的論文の講読					
授業の到達目標					
日本民法の古典的論文を時間をかけて読み、考えの組み立て方を学ぶこと。					
授業内容・授業計画					
最初に、末川博「権利侵害論」(『権利侵害と権利濫用〔末川博法律論文集Ⅱ〕』所収)を読み、その結果明らかになった、さらに読むべき文献を探して順番に読んでゆく。					
第1回 オリエンテーション					
第2回 文献講読					
第3回 文献講読					
第4回 文献講読					
第5回 文献講読					
第6回 文献講読					
第7回 文献講読					
第8回 文献講読					
第9回 文献講読					
第10回 文献講読					
第11回 文献講読					
第12回 文献講読					
第13回 文献講読					
第14回 文献講読					
第15回 文献講読					
事前・事後学習の内容					
報告担当の部分につき、レジюмеを作成すること。報告担当以外の出席者は、その部分をあらかじめ読み、疑問点を整理してくること。					
評価方法 授業時の報告・討論の内容を評価する。					
受講生へのコメント 担当部分の全体像を把握するとともに、小さな疑問点を無視しないこと。					
教材 オリエンテーションで指定する文献の複写を、各自で用意すること。					
その他					

開講年度・学期	2017年度・後期	授業形態	演習	単位数	4単位
科目名	民法第4	科目ナンバー	JAPRI5504 JAPRI6604		
英語表記	Civil Law 4	担当教員	杉本好央		
開講時限	毎週水曜日3・4限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
近代民法の基礎的概念に関する研究					
授業の到達目標					
西欧近代における民法の歴史的意義の一端を理解する。					
授業内容・授業計画					
<p>近代民法の基礎的概念として様々なものを挙げる。本講義では、これらの概念の歴史的展開を通じて、西欧近代における民法の核心を探り、われわれの時代におけるその意義を検討する。</p> <p>本年度は、契約の拘束力という概念について考えるべく、さしあたりの出発点として、Larroumet, Bros, TRAITÉ DE DROIT CIVIL, Les obligations. Le contra, 7éd, 2014の講読を予定している。しかし、最終的には、参加者の関心を考慮して講読文献を決める。</p>					
事前・事後学習の内容					
<p>講義前には、講読対象となる文献を精読する必要がある。</p> <p>講読後には、講義で問題となった点につき、調査又は検討することが望ましい。</p>					
評価方法					
講義への参加態度および事前学習の状況により評価する。					
受講生へのコメント					
主題に関心のある方の参加を望む。					
教材					
授業内容・授業計画の記述を参照すること。					
その他					

開講年度・学期	2017年度・前期	授業形態	演習	単位数	4単位
科目名	民法第5	科目ナンバー	JAPRI5505 JAPRI6605		
英語表記	Civil Law 5	担当教員	藤井徳展		
開講時限	別途掲示・通知する。	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
本講座の対象は、日本の民法財産法である。					
授業の到達目標					
本講座では、主として書評作成の手法をモデルとして、日本の民法財産法理論にかかる分析、検討をする。総じて、研究に必要な手法の基礎づくりにつとめたい。					
授業内容・授業計画					
民法財産法の伝統的テーマから現代的テーマまで、主として受講生の研究テーマで、その他受講生の関心のある主要なテーマで、各回それぞれ主要な文献・論文1点または数点を報告対象として、それと関連する文献・論文を網羅的にとりあげて、分析、検討をする。					
事前・事後学習の内容					
相当の質・量の文献・論文を縦横に講読する。					
各回の報告担当者は、報告対象文献・論文の内容をまとめたうえで、関連文献・論文を手がかりに、批判的に分析、検討をすすめること。					
報告担当者以外の受講者は、事前に、かかる文献・論文を熟読したうえで、問題状況、議論状況を把握しておくこと。					
いずれにしても、演習時かぎりとしないうで、自らの研究との接続をはかること。					
評価方法					
演習への参加状況を総合的に評価する。					
受講生へのコメント					
果敢に挑戦する意思のある者の参加を、希望する。					
教材					
受講生の研究テーマにかかる文献・論文、その他受講生の関心のある主要なテーマに応じて、開講時その他、全体の場で決める。					
その他					

開講年度・学期	2017 年度・通年	授業形態	演習	単位数	4 単位
科目名	商法第 1	科目ナンバー	JAPRI5507	JAPRI6607	
英語表記	Commercial Law 1	担当教員	小柿徳武		
開講時限	毎週水曜 4 限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
株式会社の監査制度に関する法規制					
授業の到達目標					
主として、日本における監査制度に関する法規制について、その沿革や現在の論点まで幅広くかつ詳細に検討することにより、株式会社制度を主体的に分析できる能力を習得することを目標とする。					
授業内容・授業計画					
本講義では、主として、日本における監査制度に関する法規制について、法改正の沿革、諸外国の制度との比較および近時の判例・裁判例を素材として検討する。毎回テーマおよび文献を指定し、報告担当者による報告に基づいて授業を進行する。					
事前・事後学習の内容					
受講生全員は、事前に指定された文献について精読するとともに、報告担当者は各回 A 4 で 4～6 頁程度のレジュメを作成して授業にのぞむことが要求される。					
評価方法					
報告内容および授業における質疑応答への参加状況によって評価する。					
受講生へのコメント					
受講希望者は、事前にメールにて担当者に連絡をとるようにすること。なお、提供時間帯は受講生と相談の上、別の時間帯に変更することがある。					
教材					
一般的な予習用テキストとして、江頭憲治郎『株式会社法〔第 6 版〕』（有斐閣、2015 年）を利用するほか、毎回のテーマごとに別途指定する。					
その他					

開講年度・学期	2017年度・前期	授業形態	演習	単位数	2単位
科目名	商法第2	科目ナンバー	JAPRI5508		
英語表記	Commercial Law 2	担当教員	吉井敦子		
開講時限	毎週月曜3限	対象	前期博士課程		
科目の主題					
コマーシャル・ローに関わる問題点					
授業の到達目標					
各問題点について十分な理解を修得する					
授業内容・授業計画					
1 取締役の会社に対する責任					
2 取締役の対第三者責任					
3 取締役会決議と取締役の利害関係					
4 株主総会決議取消訴訟の裁量棄却					
5 第三者に対する新株の有利発行					
6 株主総会決議の欠如					
7 会社による行為と追認					
8 株主代表訴訟の相手方					
9 総会決議の取消しと破産宣告					
10 内部統制システム					
11 取締役による融資判断					
12 取締役の報酬					
13 事業再編と経営判断					
14 新株発行の無効					
事前・事後学習の内容					
毎回具体的に割当てられた内容について資料収集・予習を行う、報告レジュメの作成					
評価方法					
授業内容について理解の点検					
報告内容と応答で評価する					
受講生へのコメント					
教材					
その他					

開講年度・学期	2017年度・通年	授業形態	演習	単位数	4単位
科目名	商法第2	科目ナンバー	JAPRI6608		
英語表記	Commercial Law 2	担当教員	吉井敦子		
開講時限	毎週月曜3限	対象	後期博士課程		
科目の主題					
コマーシャル・ローに関わる判例、問題点の理解					
授業の到達目標					
到達目標 各回について十分な理解を修得する					
授業内容・授業計画					
1 最判昭和 47. 6. 15 民集 26. 6. 15					
2 最大判昭和 44. 11. 26 民 23. 11. 2150					
3 最判昭和 54. 2. 23 民集 33. 1. 25					
4 最判平成 5. 9. 5 判タ 833. 149					
5 最判昭和 50. 4. 8 民集 29. 4. 350					
6 最判平成 4. 12. 18 民集 46. 9. 3006					
7 最判平成 17. 2. 15 判タ 1176. 135					
8 最判平成 21. 3. 31 民集 63. 3. 47					
9 最判平成 21. 4. 17 判タ 1297. 124					
10 最判平成 21. 7. 9 判タ 1307. 117					
11 最判平成 21. 11. 27 判タ 1313. 119					
12 最判平成 22. 3. 16 判タ 22. 3. 16 判タ					
13 最判平成 22. 7. 15 判タ 1323. 114					
14 最判平成 24. 4. 24 判タ 1378. 90					
15 最決平成 19・12・11 民集 61・9・3364					
16 最判平成 25・3・7 集民 243・51					
17 最平成 15・11・17 金法 1703・48					
18 最判平成 18・6・12 金法 1790・57					
19 最判平成 23・4・22 民集 65・3・1405					
20 最判平成 21・1・22 民集 63・1・228					
21 最判平成 10・7・14 民集 52・5・1261					
22 最判平成 28年1・12 民集 70・1・1					
23 最判 7・6・23 民集 49・6・1737					
24 最判昭和 48・10・9 民集 27・9・1129					
25 最判平成 17・7・14 民集 59・6・1323					
26 銀行業務の公共性					
27 金融証券取引法					
28 世界金融危機					

事前・事後学習の内容 毎回具体的に割当てられた内容について資料収集・予習を行う、報告レジュメの作成
評価方法 授業内容について理解の点検 報告内容と応答で評価する
受講生へのコメント
教材
その他

開講年度・学期	2017年度・通年	授業形態	演習	単位数	4単位
科目名	商法第3	科目ナンバー	JAPRI5509 JAPRI6609		
英語表記	Commercial Law 3	担当教員	高橋英治		
開講時限	毎週火曜3限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
ドイツ会社法の文献を精読する。					
授業の到達目標					
ドイツ会社法の理解を深め、自分でドイツ会社法の文献を読み進めることができるようになる。					
授業内容・授業計画					
ドイツ語の会社法関係の文献を精読する。ドイツ語の中級程度の読解力および会社法に関する専門知識を参加の要件とする。参加希望者は、事前にメールで連絡すること。日本の会社法のテキストとしては、高橋英治「会社法概説〔第3版〕」(中央経済社、2015年)を使う。ドイツの会社法のテキストとしては、高橋英治『ドイツ会社法概説』(有斐閣、2012年)を使う。					
事前・事後学習の内容					
事前に担当するドイツ会社法文献のドイツ語を和訳してくる。					
評価方法					
毎回の発表によって評価する。					
受講生へのコメント					
意欲のある学生に来てもらいたいです。					
教材					
高橋英治「会社法概説〔第3版〕」(中央経済社、2015年)					
高橋英治『ドイツ会社法概説』(有斐閣、2012年)					
その他					

開講年度・学期	2017 年度・後期	授業形態	演習	単位数	2 単位
科目名	企業法務	科目ナンバー	JAPRI5511		
英語表記	Business Law	担当教員	吉井敦子		
開講時限	毎週木曜 3 限	対象	前期博士課程		
科目の主題					
ビジネス・ローにおける問題点					
授業の到達目標					
各問題点について十分な理解を修得する					
授業内容・授業計画					
1 企業法務と秘密保持義務					
2 説明義務と不法行為責任					
3 他業種における説明義務の責任					
4 説明義務と信義則					
5 契約締結前の過失					
6 情報提供義務					
7 約定条項と会社の破産					
8 会社による調査と約定					
9 企業法務における信義則					
10 権利能力なき社団					
11 コンプライアンス違反と民事上の効果					
12 銀行の付随業務					
13 証券業務					
14 デリバティブ取引					
事前・事後学習の内容					
毎回具体的に割当てられた内容について資料収集・予習を行う、報告レジュメの作成					
評価方法					
授業内容について理解の点検					
報告内容と応答で評価する					
受講生へのコメント					
教材					
その他					

開講年度・学期	2017 年度・通年	授業形態	演習	単位数	4 単位
科目名	民事訴訟法第 2	科目ナンバー	JAPRI5514 JAPRI6612		
英語表記	Civil Procedure 2	担当教員	鶴田滋		
開講時限	毎週木曜 2 限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
必要的共同訴訟の法理について					
授業の到達目標					
ドイツ民事訴訟法の基本文献を精読する能力を身につけ、これを通じて日本民事訴訟法の理解を深めることができるようになること。					
授業内容・授業計画					
必要的共同訴訟の法理を理解するためには、訴訟追行権と実体適格、訴訟物、既判力拡張、参加的効力、法的審問請求権の保障など、民事訴訟法の様々な基礎理論を把握する必要がある。そこで、本講義では、必要的共同訴訟に関連するドイツ民事訴訟法の文献を精読し、日本民事訴訟法の解釈論への示唆を得る。					
事前・事後学習の内容					
事前学習：事前に指定した文献の範囲を精読し、その内容に対応する日本法における議論を調べる。 事後学習：授業で話題となったテーマに関する日独の文献を収集・精読し、さらに理解を深める。					
評価方法					
授業における報告の内容と授業における発言内容を総合的に評価する。					
受講生へのコメント					
教材					
今のところ、Mantzouranis, Die notwendige Streitgenossenschaft im Zivilprozess, 2013 を予定しているが、受講者と相談の上決める。					
その他					

開講年度・学期	2017年度・通年	授業形態	演習	単位数	4単位
科目名	倒産法	科目ナンバー	JAPRI5516 JAPRI6614		
英語表記	Insolvency Law	担当教員	高田賢治		
開講時限	毎週水曜2限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
支払不能に陥った債務者と利害関係人との利害調整のルールである倒産法の理論研究をする。					
授業の到達目標					
わが国の倒産法と外国の倒産法を比較して、どのような共通点・相違点があるかを正確に理解することを目標とする。					
授業内容・授業計画					
アメリカ連邦倒産法に定められるチャプター11は、事業再生手続である。チャプター11において債権者の権利がどのように扱われるかについて、指定されたテキスト・判例等を検討する。					
アメリカの英語文献を正確に読み、比較法的な視野を獲得することを通じて、チャプター11の特徴を理解するとともに、わが国の民事再生法・会社更生法における債権者の権利の扱いその他の諸特徴を理解して、理論研究の重要性を理解する。					
事前・事後学習の内容					
参加者は、割り当てられた部分を和訳して、関連条文を調査する必要がある(4時間)。					
評価方法					
和訳の正確性および授業における議論への参加					
受講生へのコメント					
英和辞典(電子辞書可)および英米法辞典を持参すること。					
教材					
C Tabb, The Law of Bankruptcy, 3rd. ed.					
その他					

開講年度・学期	2017年度・通年	授業形態	演習	単位数	4単位
科目名	労働法	科目ナンバー	JASOC5501 JASOC6601		
英語表記	Labor Law	担当教員	根本到		
開講時限	毎週水曜2限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
外国労働法の研究を通じて、労働法の専門的な法的課題と解決法を明らかにする。					
授業の到達目標					
ドイツ、韓国または中国の労働法の考察を行なったうえで、日本の労働法との比較法研究を行なうこと によって、労働法の専門的能力の向上をめざす。					
授業内容・授業計画					
ドイツ、韓国、中国の労働法における雇用差別禁止法、労働時間規制、賃金法制、非正規労働者に関する法規制の内容などについて取りあげる。					
事前・事後学習の内容					
毎回出されるテーマに関連する文献や判例を読んだうえで参加する。事後には関連する判例等について考えていただきたい。					
評価方法					
全体の出席状況や議論内容を総合的に評価する。					
受講生へのコメント					
受講する院生には、毎回出席し、報告を準備してもらいたい。					
教材					
文献は適宜紹介する					
その他					

開講年度・学期	2017年度・通年	授業形態	演習	単位数	4単位
科目名	国際組織法	科目ナンバー	JAINT5502 JAINT6602		
英語表記	Law of International Organizations	担当教員	桐山孝信		
開講時限	毎週金曜 4 限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
国際組織法と国際法の関係					
授業の到達目標					
国際組織法の根拠をなす国際法の基礎原理について、文化的、社会的文脈から考察し、社会科学的な理解ができるようになることを到達目標とする。					
授業内容・授業計画					
最近発刊された、E. T. Jouannet, “A Short Introduction to International Law” (Cambridge, 2014) を通読し、国際組織法の根拠をなす国際法の基礎原理について、文化的、社会的文脈から考察し、社会科学的な理解を深める。					
事前・事後学習の内容					
毎回、テキストの一定量を報告してもらうので、その報告の準備を事前学習とし、講義ごとに指定する関連文献の購読を事後学習とする。					
評価方法					
報告の内容及びその後の質疑応答などについて、総合的に評価する。					
受講生へのコメント					
毎回の学習を怠らず、英語を訳すという姿勢ではなく、書かれている内容について理解しようと心がけること。					
教材					
上記、授業内容・授業計画に記載のもの。					
その他					

開講年度・学期	2017年度・前期	授業形態	演習	単位数	2単位
科目名	国際経済法	科目ナンバー	JAINT5503 JAINT6603		
英語表記	International Economic Law	担当教員	平覚		
開講時限	毎週火曜 1 限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
WTO 体制と地域貿易協定の関係					
授業の到達目標					
いわゆる WTO プラス及びマイナスの地域貿易協定の WTO 法上の位置づけと問題点を理解できる。					
授業内容・授業計画					
<p>当面、以下の論文を輪読しながら、議論していく。</p> <p>Armand C.M.de Mestral, “WTO and RTAs: An Uneasy Relationship”, <i>Journal of International Economic Law</i>, 2013. 16. 777-825.</p>					
【外国語】 英語 (外国語の文献講読を主内容とする授業科目)					
事前・事後学習の内容					
<p>事前学習では、自分自身でどこが理解できないか予め確認しておくこと。</p> <p>事後学習では、授業での内容の理解を再確認し、事前学習で抱いた疑問点が解明できたかどうかを確認すること。なお、毎回、1名に対して、授業で読んだ部分の日本語訳を提出してもらい、教員が添削したのち、次の授業で全員で確認してから、次へ進む。</p>					
評価方法					
事前準備の状況や積極的な質疑応答による授業への貢献度					
受講生へのコメント					
進度は受講生の能力に合わせる。					
教材					
PDF ファイルを配布する。					
その他					

開講年度・学期	2017 年度・前期	授業形態	演習	単位数	2 単位
科目名	国際私法第 1	科目ナンバー	JAINT5504 JAINT6604		
英語表記	Private International Law 1	担当教員	国友明彦		
開講時限	毎週金曜 4 限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
国際私法上の公序の研究(参加者の希望により変更の余地あり)					
授業の到達目標 国際私法専攻の学生: 自立して研究することができるようになること その他の専攻の学生: 国際私法について外国語文献も含めた調査することができるようになること					
授業内容・授業計画					
主として、標記主題に関する英独仏語文献の講読形式で行なう。参加者の希望によってはそのうち 1 カ国語に絞ってもよい。 そのほか、日本語の論文を検討したり、日本の判例研究をすることもありうる。					
【外国語】 未定。希望があれば相談されたい。					
事前・事後学習の内容					
事前学習: 外国語文献を読み、担当箇所的全訳を作る。					
評価方法					
平常点による。すなわち、外国語文献の訳や報告の出来と内容についての議論状況にもとづく。					
受講生へのコメント					
教材					
受講者と相談の上で決定する。					
その他					

開講年度・学期	2017 年度・後期	授業形態	演習	単位数	2 単位
科目名	国際私法第 2	科目ナンバー	JAINT5505 JAINT6605		
英語表記	Private International Law 2	担当教員	国友明彦		
開講時限	毎週木曜 4 限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
国際私法上の公序の研究(参加者の希望により変更の余地あり)					
授業の到達目標 国際私法専攻の学生: 自立して研究することができるようになること その他の専攻の学生: 国際私法について外国語文献も含めた調査することができるようになること					
授業内容・授業計画					
主として、標記主題に関する英独仏語文献の講読形式で行なう。参加者の希望によってはそのうち 1 カ国語に絞ってもよい。 そのほか、日本語の論文を検討したり、日本の判例研究をすることもありうる。					
【外国語】 未定。希望があれば相談されたい。					
事前・事後学習の内容					
事前学習: 事前学習: 外国語文献を読み、担当箇所の全訳を作る。					
評価方法					
平常点による。すなわち、外国語文献の訳や報告の出来と内容についての議論状況にもとづく。					
受講生へのコメント					
教材					
受講者と相談の上で決定する。					
その他					

開講年度・学期	2017 年度・後期	授業形態	演習	単位数	2 単位
科目名	国際取引法	科目ナンバー	JAINT5507 JAINT6607		
英語表記	Law of International Transactions	担当教員	平覚		
開講時限	毎週木曜 1 限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
投資家と投資受入国の間の投資仲裁					
授業の到達目標					
上記主題に関わる国際法上の諸問題の所在を知り、理論的考察を行うことができる。					
授業内容・授業計画					
上記主題に関する最新の雑誌論文を取り上げて、輪読しながら、議論していく。 具体的には、受講生の問題関心に合わせて論文を選択する。					
【外国語】 英語 (外国語の文献講読を主内容とする授業科目)					
事前・事後学習の内容					
事前学習では、自分自身でどこが理解できないか予め確認してくること。 事後学習では、授業での内容の理解を再確認し、事前学習で抱いた疑問点が解明できたかどうかを確認すること。なお、毎回、1 名に対して、授業で読んだ部分の日本語訳を提出してもらい、教員が添削したのち、次の授業で全員で確認してから、次へ進む。					
評価方法					
事前準備の状況や積極的な質疑応答による授業への貢献度					
受講生へのコメント					
進度は受講生の能力に合わせる。					
教材					
PDF ファイルを配布する。					
その他					

開講年度・学期	2017年度・通年	授業形態	演習	単位数	4単位
科目名	英米法	科目ナンバー	JAINT5508 JAINT6608		
英語表記	Anglo-American Law	担当教員	勝田卓也		
開講時限	毎週月曜2限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
アメリカ最高裁判例研究					
授業の到達目標					
アメリカ最高裁の最近の判例を研究者として理解する力を養う。					
授業内容・授業計画					
<p>最近のアメリカ最高裁の判例の中から適切なものを選択して輪読する。判例の選択に際しては参加者の希望を尊重するが、特に希望がないか、参加者の希望が分かれた場合には憲法ないし刑事法の分野の判例を用いて授業を行う。英米の判例を研究のために用いる場合には、法律用語や判例法独特の約束事などについての知識が不可欠である。そうした知識を身につけて、自身の研究のために適切な形で判例を利用できるよう指導する。</p> <p>毎回の授業で判例を少しずつ読み進める。参加者が事前に作成した資料に基づいて検討と解説を行う。スピードよりも内容の理解を優先するので、一回の授業で2～3段落程度精読することになる。</p>					
【外国語】 英語 (外国語の文献講読を主内容とする授業科目)					
事前・事後学習の内容					
事前に担当部分を翻訳する。授業中に指摘された事項を踏まえて翻訳を作り直す。					
評価方法					
平常点による。					
受講生へのコメント					
開講時間については参加者の都合を考慮する。参加希望者は事前にメールで連絡すること。					
教材					
配布する。					
その他					

開講年度・学期	2017年度・前期	授業形態	演習	単位数	4単位
科目名	ドイツ法	科目ナンバー	JAINT5509 JAINT6609		
英語表記	German Law	担当教員	守矢健一		
開講時限	毎週水曜 1限・2限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
ヒトラー『わが闘争』を観察する					
授業の到達目標					
現代社会の基本問題について一定の理解を得ること					
授業内容・授業計画					
<p>2016年初頭に、ヒトラー『わが闘争』の批判的校訂版が出たことは、ひとつの事件であった。この機会に、その批判的校訂版に収録された、詳細な分析を読んでみよう。テキストは全体で80頁ほどである。</p> <p>Hitler, Mein Kampf. Eine kritische Edition, Bde. 1 und 2, hg. von Christian Hartmann, Thomas Vordermayer, Othmar Plöckinger, Roman Töppel, 2016. S. 8-82.</p> <p>間接的に、本演習は、現代社会分析の手がかりを得ることをも目的としている。</p>					
【外国語】ドイツ語 (外国語の文献講読を主内容とする授業科目)					
事前・事後学習の内容					
事前に該当部分を丹念に読むこと。事後に、演習で得られた知見を基礎として、読解の修正を行うこと。					
評価方法					
演習に対する主体的参加の有無による。					
受講生へのコメント					
毒のあるテキストを巡る考察を行うことに留意されよ。					
教材					
上述のテキストをつかう。下記の連絡先に相談されたい。					
その他					

開講年度・学期	2017年度・前期	授業形態	演習	単位数	4単位
科目名	アジア法第1 (中国法)	科目ナンバー	JAINT5512 JAINT6610		
英語表記	Asian Law 1 (Chinese Law)	担当教員	王晨		
開講時限	毎週月曜 13:00~16:10	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
中国民法典編纂と総則編立法					
授業の到達目標					
中国民法総則の編纂について、基本的な比較法の知識を獲得することを目標とする。					
授業内容・授業計画					
<p>昨年度に引き続き、中国民法典の編纂をめぐる論争及び再開された民法典編纂における総則編立法を中心に中国民法典の制定過程における伝統への回帰と創造について考察する。主に「中華人民共和国民法総則」(2017年)に沿って進むことにしていきたい。同時にその他の民法典建議稿、外国法との比較研究も行う予定。なお、テーマは、院生の要請により調整されることがありうる。</p>					
<p>【外国語】 中国語 (外国語の文献講読を主内容とする授業科目)</p>					
事前・事後学習の内容					
授業までに関連資料の指定箇所を予習し、授業後は、しっかり復習することが重要である。授業の前後にそれぞれ2時間程度の予習・復習が望ましい。					
評価方法					
平常点(演習における質問や議論への参加の状況、レポートの提出、出席状況)で評価する。					
受講生へのコメント					
演習に参加して、歴史的にも地理的にも親近感のある中国大陸の法の動きを研究し、積極的に発言することによって比較法的素養を身につけてほしい。					
教材					
「中華人民共和国民法総則」(中国人大綱)など					
その他					

開講年度・学期	2017年度・前期	授業形態	演習	単位数	2単位
科目名	政治学	科目ナンバー	JAPOL5501 JAPOL6601		
英語表記	Political Science	担当教員	稗田健志		
開講時限	毎週金曜2限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
実証政治学のリサーチデザイン					
授業の到達目標					
社会科学において、適切な推論を行うための研究設計を自ら行えるようになる。					
授業内容・授業計画					
<p>近年の政治学では研究設計（リサーチデザイン）に関する議論が精緻化しており、注意深く仮説の導出・検定をデザインしなければ、「不定(indeterminate)」な研究とみなされかねない状況にある。この授業では仮説の設定、変数の測定、因果関係の同定といったリサーチデザインの基本を初歩的な教科書の輪読を通じて学んでいきたい。具体的な輪読文献は参加者の興味関心に応じて決めたいが、さしあたり以下の文献などを候補に考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Shively, W. P., 2004. <i>The craft of political research</i>. 6th. Englewood Cliffs, N.J.: Prentice Hall. ・ Geddes, B., 2003. <i>Paradigms and sand castles: Theory building and research design in comparative politics</i>. Ann Arbor: University of Michigan Press. 					
事前・事後学習の内容					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前学習：次回の演習で輪読予定の部分を丁寧に読み込み、自分の分からない部分を明確にする。 ・ 事後学習：自分の読解が誤っていた部分を復習し、その原因を把握する。 					
評価方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 輪読担当部分の報告およびゼミ中の発言 					
受講生へのコメント					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師の研究内容等については以下のウェブサイトを参照のこと。 http://www.geocities.jp/takeshi_hieda77/ ・ 受講希望者は事前に講師にメールで問い合わせること。 					
教材					
上述の通り。					
その他					

開講年度・学期	2017 年度・前期	授業形態	演習	単位数	2 単位
科目名	政治学史	科目ナンバー	JAPOL5502 JAPOL6602		
英語表記	History of Political Thought	担当教員	宇羽野明子		
開講時限	毎週月曜 3 限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
17 世紀英仏の政治思想・寛容思想					
授業の到達目標					
17 世紀英仏の政治思想を「寛容」観から考察する					
授業内容・授業計画					
<p>17 世紀英仏の政治思想における代表的な「寛容」についての古典を読み、当時の政治思想の諸相を考察します。</p> <p>テキストは、<i>Les fondements philosophiques de la tolérance en France et en Angleterre au XVIIe siècle</i>, sous la direction de Y.C. Zarka, F. Lessay, J. Rogers , t. 2, Presses Universitaires de France, 2002 を用い、所収の諸作品のなかから、参加者と相談していくつかをピックアップして読んでいきたいと思います。</p>					
事前・事後学習の内容					
上記テキストの精読はもちろんのこと、関連するテキストなどにも目を通して演習に参加してください。					
評価方法					
毎回の報告内容によって評価					
受講生へのコメント					
参加希望者は 4 月 3 日から 6 日までにメールで必ず連絡してください。					
教材					
上記テキスト					
その他					

開講年度・学期	2017 年度・前期	授業形態	演習	単位数	2 単位
科目名	政治文化論	科目ナンバー	JAPOL5503 JAPOL6603		
英語表記	Studies on Political Culture/Civilization	担当教員	宇羽野明子		
開講時限	毎週木曜 3 限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
ヨーロッパ思想史における友愛と政治					
授業の到達目標					
古典古代、中世ヨーロッパの「友愛」思想を理解する					
授業内容・授業計画					
<p>古典古代、中世ヨーロッパの「友愛」思想にかんする古典の抜粋集を読み、ヨーロッパ思想史における友愛と政治の関係を考察します。</p> <p>テキストは、J. Follon et J. McEvoy, <i>Sagesses de l'amitié</i> (Paris : Editions du Cerf, 1997), <i>Sagesses de l'amitié II</i> (Paris : Editions du Cerf, 2003)を用い、考察対象とする作品については参加者と相談して読んでいきたいと思ひます。</p>					
事前・事後学習の内容					
上記テキストの精読はもちろんのこと、関連するテキストなどにも目を通して演習に参加してください。					
評価方法					
毎回の報告内容によって評価					
受講生へのコメント					
参加希望者は4月3日から6日までにメールで必ず連絡してください。					
教材					
上記テキスト					
その他					

開講年度・学期	2017 年度・後期	授業形態	演習	単位数	2 単位
科目名	欧州政治外交史	科目ナンバー	JAPOL5505 JAPOL6605		
英語表記	European Political and Diplomatic History	担当教員	野田昌吾		
開講時限	毎週金曜 2 限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
「1968 年」の記憶					
授業の到達目標					
「1968 年」に関する歴史研究の現状についての理解を深める。					
授業内容・授業計画					
<p>参加者と相談して取り扱う文献については決めたいが、今のところ以下の文献などを候補として考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Gurminder K. Bhambra and Ipek Demir (eds.), 1968 in Retrospect: History, Theory, Alterity, Basingstoke: Palgrave Macmillan, 2009. ・Ingo Cornils and Sarah Waters (eds.), Memories of 1968: International Perspective, Oxford: Peter Lang, 2010. <p>あるいは、「1968 年」の意味という観点から、1970 年代とは何だったかというテーマを取り上げることも一つ考えられる。以下は西ドイツの 1970 年代を論じた論文集である。参加者がドイツ語を読めるのであれば、これを講読する選択肢もある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Konrad H. Jarausch (Hrsg.), Das Ende der Zuversicht? Die siebziger Jahre als Geschichte, Göttingen, 2008. 					
事前・事後学習の内容					
テキストをあらかじめ読んで出席すること。授業で出た疑問点について文献等を当たって調べること。					
評価方法					
平常点による。					
受講生へのコメント					
準備の都合上、参加希望者はあらかじめ 9 月中に野田まで連絡すること。					
教材					
上記のとおり。					
その他					

開講年度・学期	2017年度・前期	授業形態	演習	単位数	2単位
科目名	国際政治	科目ナンバー	JAPOL5506 JAPOL6606		
英語表記	International Politics	担当教員	永井史男		
開講時限	毎週水曜 4限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
東南アジアの国際関係 (International Relations in Southeast Asia)					
授業の到達目標					
第二次世界大戦後から現在までの東南アジア地域主義の形成を検討する。					
授業内容・授業計画					
東南アジアでは AESAN(東南アジア諸国連合)の地域主義の深化が進み、重要な研究成果が日本語でも英語でも相次いで出されている。そこで、本授業では、以下に挙げる教材の輪読を通じて、東南アジア国際関係に対する理解を深めたい。教材はすべて取り上げるのではなく、適宜取捨選択する。					
【外国語】 英語 (外国語の文献講読を主内容とする授業科目)					
事前・事後学習の内容					
教材を事前に読んでくるのが前提である。事後学習は、講義中に関連する教材や補充テキストを適宜指示する。					
評価方法					
報告内容及び討論への貢献によって評価する。					
受講生へのコメント					
最初に日本語文献を読み、歴史的事実や概念について知識を得たのち、英語文献を取り上げたい。受講生の前提知識や興味関心、外国語能力の水準に従って、教材を取捨選択する。					
教材					
大庭三枝『重層的地域としてのアジア——対立と共存の構図』有斐閣、2014年。					
佐藤考一『「中国脅威論」とASEAN諸国-安全保障・経済をめぐる会議外交の展開』勁草書房、2012年。					
鈴木早苗『合意形成モデルとしてのASEAN —国際政治における議長国制度—』東京大学出版会、2014年。					
渡邊昭夫編『アジア太平洋と新しい地域主義の展開』千倉書房、2010年。					
Amitav Acharya, The Quest for Identity: International Relations of Southeast Asia. Oxford University Press, 2000.					
Amitav Acharya, The Making of Southeast Asia: International Relations of a Region. Cornell University Press. 2013.					
Hiro Katsumata, ASEAN's Cooperative Security Enterprise: Norms and Interests in the ASEAN Regional Forum (London/Basingstoke: Palgrave MacMillan, 2009)					
その他					

開講年度・学期	2017 年度・前期	授業形態	演習	単位数	2 単位
科目名	行政学	科目ナンバー	JAPOL5507 JAPOL6607		
英語表記	Public Administration	担当教員	手塚洋輔		
開講時限	毎週月曜 3 限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
行政学基礎文献講読 (1)					
授業の到達目標					
理論的な展開を理解する					
授業内容・授業計画					
<p>下記の文献のうち、受講者の関心に沿っていくつかの章と元となる文献を講読する。</p> <p>Steven J. Balla, Martin Lodge, and Edward C. Page ed., <i>The Oxford Handbook of Classics in Public Policy and Administration</i>, Oxford University Press, 2015.</p>					
事前・事後学習の内容					
該当箇所を読んで論点やコメントを作成するとともに、事後に復習し理解を深めること。					
評価方法					
内容の理解の程度などを総合的に評価する					
受講生へのコメント					
準備の都合上、希望者は、自らの関心領域をそえてメールで事前に連絡してください。					
教材					
上記書籍及び元となる文献 (こちらで準備する)					
その他					

開講年度・学期	2017 年度・前期	授業形態	演習	単位数	2 単位
科目名	政治過程論	科目ナンバー	JAPOL5510 JAPOL6610		
英語表記	Study of Political Process	担当教員	野田昌吾		
開講時限	毎週水曜 2 限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
平和主義の現在					
授業の到達目標					
上記主題について理解を深める					
授業内容・授業計画					
<p>詳細は参加者と相談のうえ決めたいが、さしあたり以下の文献の講読などが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・篠田英朗『集団的自衛権の思想史——憲法 9 条と日米安保』風光社、2016 年。 ・細谷雄一『安保論争』ちくま新書、2016 年。 ・半田滋『日本は戦争をするのか——集団的自衛権と自衛隊』岩波新書、2014 年。 ・古関彰一『「平和国家」日本の再検討』岩波現代文庫、2013 年。 ・吉田裕『日本人の戦争観——戦後史のなかの変容』岩波現代文庫、2005 年。 					
事前・事後学習の内容					
テキストをあらかじめ読んで出席すること。授業で出た疑問点について文献等を当たって調べること。					
評価方法					
平常点による。					
受講生へのコメント					
準備の都合上、参加希望者はあらかじめ 3 月中に野田まで連絡すること。					
教材					
上記のとおり。					
その他					

開講年度・学期	2017年度・後期	授業形態	演習	単位数	2単位
科目名	アジア政治	科目ナンバー	JAPOL5511 JAPOL6611		
英語表記	Asian Politics	担当教員	永井史男		
開講時限	毎週水曜 4限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
東南アジア政治					
授業の到達目標					
東南アジア政治研究の方法論の考察。					
授業内容・授業計画					
<p>米国イェール大学の著名な東南アジア政治研究者であるジェームズ・スコット (James C. Scott) の代表的著作を題材に、東南アジア政治研究の方法論を学ぶ。代表的な研究書を数冊取り上げ、数チャプターを読み進めながら、検討する。</p> <p>【外国語】 英語 (外国語の文献講読を主内容とする授業科目)</p>					
事前・事後学習の内容					
教材を事前に読んでくるのが前提である。事後学習は、講義中に関連する教材や補充テキストを適宜指示する。					
評価方法					
報告内容及び討論への貢献によって評価する。					
受講生へのコメント					
英語のテキストを大量に読むので、そのつもりで受講に臨んでほしい。					
教材					
<p><i>Weapons of the Weak: Everyday Forms of Peasant Resistance</i>, Yale University Press, 1985. <i>Domination and the Arts of Resistance: Hidden Transcripts</i>, Yale University Press, 1990. <i>Seeing Like a State: How Certain Schemes to Improve the Human Condition Have Failed</i>, Yale University Press, 1998.</p> <p>ジェームズ・C・スコット (著), 佐藤 仁 (監修, 翻訳) 『ゾミア—— 脱国家の世界史』みすず書房、2013年 (The Art of Not Being Governed: An Anarchist History of Upland Southeast Asia, (Yale University Press, 2009).</p>					
その他					

開講年度・学期	2017 年度・後期	授業形態	演習	単位数	2 単位
科目名	比較政治	科目ナンバー	JAPOL5513 JAPOL6613		
英語表記	Comparative Politics	担当教員	稗田健志		
開講時限	毎週金曜 2 限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
比較政治経済学					
授業の到達目標					
比較政治経済学の最先端の研究論文を分析的に読解し、リサーチのフロンティアを把握することができる。					
授業内容・授業計画					
<p>近年、政治体制や政治制度が経済・社会に与える影響を分析する「比較政治経済学」が政治学のサブディシプリンとして一つの地位を確立するに至っている。この授業では比較政治経済学のこれまでの成果を概観し、今後の研究のフロンティアを探りたい。</p> <p>授業の進め方としては、指定の教科書を順に読み進める形で受講者の共通認識を育みつつ、そこで言及されているオリジナルの研究を担当者に報告してもらい輪読形式をとる。その意図は、原典を分析的に読むことで、研究遂行に不可欠な、先行研究を批判し自分の議論を対置する能力を養うことにある。</p>					
事前・事後学習の内容					
<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：次回の演習で輪読予定の部分を丁寧に読み込み、自分の分からない部分を明確にする。 ・事後学習：自分の読解が誤っていた部分を復習し、その原因を把握する。 					
評価方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・輪読担当部分の報告およびゼミ中の発言 					
受講生へのコメント					
<ul style="list-style-type: none"> ・講師の研究内容等については以下のウェブサイトを参照のこと。 http://www.geocities.jp/takeshi_hieda77/ ・受講希望者は事前に講師にメールで問い合わせること。 					
教材					
<p>教科書：新川敏光他『比較政治経済学』有斐閣アルマ、2004 年。</p> <p>その他：英語論文多数。</p>					
その他					

開講年度・学期	2017 年度・後期	授業形態	演習	単位数	2 単位
科目名	地方自治論	科目ナンバー	JAPOL5515 JAPOL6614		
英語表記	Local Government	担当教員	手塚洋輔		
開講時限	毎週月曜 3 限	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
行政学基礎文献講読 (2)					
授業の到達目標					
理論的な展開を理解する					
授業内容・授業計画					
下記の文献のうち、受講者の関心に沿っていくつかの章と元となる文献を講読する。 Steven J. Balla, Martin Lodge, and Edward C. Page ed., <i>The Oxford Handbook of Classics in Public Policy and Administration</i> , Oxford University Press, 2015. ※前期の行政学とは異なる箇所を取り上げる予定のため、連続して受講する必要はない。					
事前・事後学習の内容					
該当箇所を読んで論点やコメントを作成してくるとともに、事後に復習し理解を深めること。					
評価方法					
内容の理解の程度などを総合的に評価する					
受講生へのコメント					
準備の都合上、希望者は、自らの関心領域をそえてメールで事前に連絡してください。					
教材					
上記書籍及び元となる文献 (こちらで準備する)					
その他					

開講年度・学期	2017 年度・通年	授業形態	演習	単位数	4 単位
科目名	特殊講義 (ドイツ法)	科目ナンバー	JACOM5501 JACOM6601		
英語表記	Special Lecture on German Law	担当教員	高田篤		
開講時限	毎週月曜 17:30~21:30	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
ドイツ語古典テキスト講読					
授業の到達目標					
ドイツ語で書かれた重要な法学文献を精密に読み、およそ言葉に対する鋭敏な感覚を涵養する。					
授業内容・授業計画					
<p>ドイツ法の古典的な文献を精読する。前年度に引き続き、今年度も、テキストとしては、<i>Jellinek, G., Die sozialetische Bedeutung von Recht, Unrecht und Strafe, 1967,</i> を精読する。</p> <p>講師に憲法の高田篤さんをお迎えし、他大学の大学院生や教員も参加する、この演習においては、実質的には、教員と学生とが同じ研究者として古典に向き合い、現代法学の基盤について、縦横に議論をたたかわせ、おおいに楽しむことが、最大の目的である。本学からも守矢が常時参加する。闊達な議論の空間が作り出せれば幸いである。</p> <p>参加希望者は、守矢までご連絡ください。</p> <p>【外国語】 ドイツ語 (外国語の文献講読を主内容とする授業科目)</p>					
事前・事後学習の内容					
事前に、全員が該当箇所を精読し、自分なりに、明瞭な含意を確定しておくこと。事後には、討論によって得られた知見を参考にして、自らの読解の誤りやテキストの多義性に基づく見解の相違を楽しむこと。					
評価方法					
演習に単に出席するだけでなく、主体的にテキスト読解に取り組んでいるかどうかにより、判定する。					
受講生へのコメント					
とくになし。					
教材					
<i>Jellinek, G., Die sozialetische Bedeutung von Recht, Unrecht und Strafe, 1967.</i> 下記の連絡先宛に相談されたい。					
その他					

開講年度・学期	2017年度・集中	授業形態	演習	単位数	2単位
科目名	特殊講義(倒産法)	科目ナンバー	JACOM5501 JACOM6601		
英語表記	Special Lecture on Insolvency Law	担当教員	田頭章一		
開講時限	8月21日(月)～24日(木)	対象	前期・後期博士課程合同		
科目の主題					
米国倒産法との比較におけるわが国の倒産法の諸論点の検討					
授業の到達目標					
米国倒産制度の理解を踏まえて、わが国の倒産法制の現代的論点について理解を深める。					
授業内容・授業計画					
<p>本授業は、大きく分けて、次の3つの内容に分けて行う。</p> <p>第1に、米国倒産法、とくに第11章再建手続について、その概要を理解したうえで、最近の重要問題を検討する。</p> <p>第2に、上記の米国倒産法と比較しつつ、わが国倒産法の現代的課題を検討する。テーマとしては、私的整理と法的整理の関係、債権者等の権利の優先順位、倒産財団中の土壤汚染不動産の処遇、民法改正の倒産法への影響などを予定している。</p> <p>第3に、受講者の興味に応じてテーマを選択し、掘り下げて検討を行う。テーマについては、事前に受講生と相談して決める。</p>					
事前・事後学習の内容					
事前に読んでおくべき資料は、講義前十分な時間をおいて指示する。また、授業内容に関連する資料は、講義時に示す。					
評価方法					
授業への参加状況、報告内容等を総合して評価する。					
受講生へのコメント					
日米倒産法の比較を、論点を絞り、深く検討する講義にしたいと思います。積極的な参加を期待します。					
教材					
講義開始1か月前までに通知する。					
その他					